

第1分科会 話すこと・聞くこと

生徒が主体的に学ぶ国語教室の創造 ～「話すこと・聞くこと」の力を伸ばす工夫を通して～

1 研究のねらい

現行の小・中学校学習指導要領の中で、「話すこと・聞くこと」は、3領域の中で最初に置かれていることもあり、「伝え合う力を高める」という国語科の目標を達成するうえで、非常に大切である。その目標を達成するうえで重視されているのが「言語活動の充実」である。ただ、話す・聞くといった活動は、国語科の授業で取り立てて指導することに対して重要視されていなかった傾向にある。それは、「話すこと・聞くこと」は普段の言語活動として授業の中で行われているため、国語科で取り上げなくとも十分その能力が身に付いているという考えがあったからだと思われる。しかし、「話すこと・聞くこと」は実際に話す活動を主観的な判断で生徒に行わせておけば、能力が身に付くという単純なものでもない。教師が意図的、計画的に「話すこと・聞くこと」の学習を組織しなければ身に付かないものである。

宮崎地区は、市立中学校25校、国立中学校1校、県立中学校1校、私立中学校6校の計33校が設置されている。学校数・規模・地域の特色等により、生徒の「話すこと・聞くこと」に関する状況も多様であることが考えられた。

そこでまず、「話すこと・聞くこと」に関して、宮崎地区の実態調査を行った。調査の対象としたのは、宮崎市内の抽出校6校（第1学年1050名、第2学年977名、第3学年1116名の回答）である。それにより、「話すこと・聞くこと」に関する課題がより具体化された形で浮かび上がった。

アンケートは、「自己紹介などの話をするのは好きですか」「聞きやすい音量で話すことを心がけていますか」といった「話すこと」のスキル・話し方・順序に関わる質問と「人の話を聞くことは好きですか」「必要に応じて質問しながら聞くことができますか」といった「聞くこと」の態度・スキルに関わる質問を行った。

アンケートの結果から、以下の3つの点が課題として上がってきた。

- ① 自己紹介や自分のことを他の人に伝えることに対して苦手意識をもっている生徒が多い。
- ② グラフや資料といった情報を分析し、説明することに対して苦手意識をもっている生徒が多い。
- ③ 話すこと・聞くことのスキルが身に付いていない生徒が多い。

この3つの課題をもとにして、「自己開示の場の設定」、「写真や図表などを効果的に組み合わせた発表」、「話すこと・聞くことのスキル習得」といった学習を取り入れていけば、言葉を通してものごとを的確に表現する力が身に付き、生徒が主体的に学ぶ国語教室の創造につながるのではないかと考え、研究を進めてきた。

2 研究の内容

(1) 自己開示の場の設定

授業にソーシャルスキルトレーニングの時間を取り入れ、自己開示のトレーニングを行った。ソーシャルスキルとすると、抵抗感を示す生徒もいるのではないかと考え、「話すこと・聞くこと」のバランス感覚を身に付けるということを前提として、相手の話を頷きながら聞いたり、相手の表情を見ながら話したりするトレーニングを行った。授業のちょっとした時間を使って実施したため、楽しく学習を行うことができた。

(2) 写真や図表などを効果的に組み合わせた発表

プレゼンテーションを行う単元で、図表や映像などを交えて視覚的に伝える学習を行った。どの部分でどんな視覚資料を用いて説明するかを絵コンテの形で進行案にまとめ、資料提示のタイミングや要点を具体的に考えた。

(3) 話すこと・聞くことのスキル習得

「話すこと・聞くこと」に関するスキル習得のため、マニュアルを準備してスピーチ活動を行った。一分間のスピーチと簡単な質疑応答をする時間を設け、ただ話すだけではなく、聞く側のスキルの習得も意識して、要点をメモにまとめながら話を聞いたり、表情を豊かに話を聞いたりする学習を行った。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 生徒の実態把握を行うことで、「話すこと・聞くこと」に関して生徒が課題意識を抱えていることが認識でき、問題点を明らかにすることができた。
- ② 自己開示のトレーニングを行ったことで、徐々にではあるが自分のことを話すことに抵抗感がなくなってきた。

(2) 今後の課題

- ① 今回は宮崎市内の中学校6校の調査にとどまったが、実態をしっかりと把握するためにも、宮崎市内すべての中学校で実態調査を行い分析し、生徒の課題意識を正確に捉える必要がある。また、実態調査の分析を行う中で、生徒は「できている」と評価しているものの、教師側からみると「できていない」と感じられる部分があった。アンケートの質問項目を吟味するとともに、客観的な評価を行う場の設定をしていきたい。
- ② ソーシャルスキルショートエクササイズについて工夫を重ねることで、「話すこと・聞くこと」に主体的に取り組むことができるのではないかと感じた。
- ③ マニュアルを使ったスピーチ活動だけでは、型どおりの話し方になってしまうため、今後、精選して、マニュアルを離れてスピーチできるように、段階を踏んだ指導の工夫をしていく必要がある。